

犬山城大手門枡形跡(犬山市福祉会館跡地) 発掘調査現地説明会資料

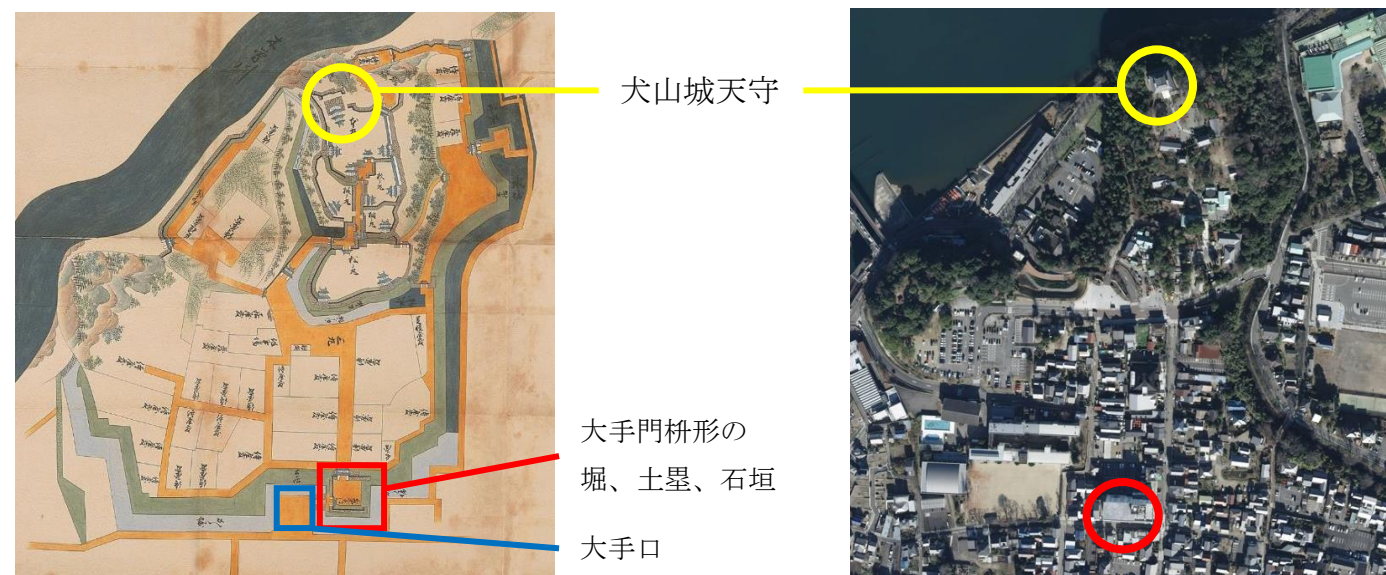
ますがた

令和3年10月3日 犬山市教育委員会

1 調査の経緯

現在調査を行っている犬山市福祉会館跡地の付近には、かつて、犬山城への入口となる大手門と石垣や土塁、堀などにつくられた大手門枡形がありました。過去の調査などでも堀や土塁などの痕跡が確認されたことから、この場所は国史跡犬山城跡の追加指定候補地となっています。

今回の調査は堀や土塁などが地下にどの程度残されているのか、また、それがどのような大きさや形だったのかを確認するために7月から実施しています。



①犬山城修復願雛形絵図 安永9年(1780)
犬山城白帝文庫蔵(一部加工)

②犬山城付近の航空写真

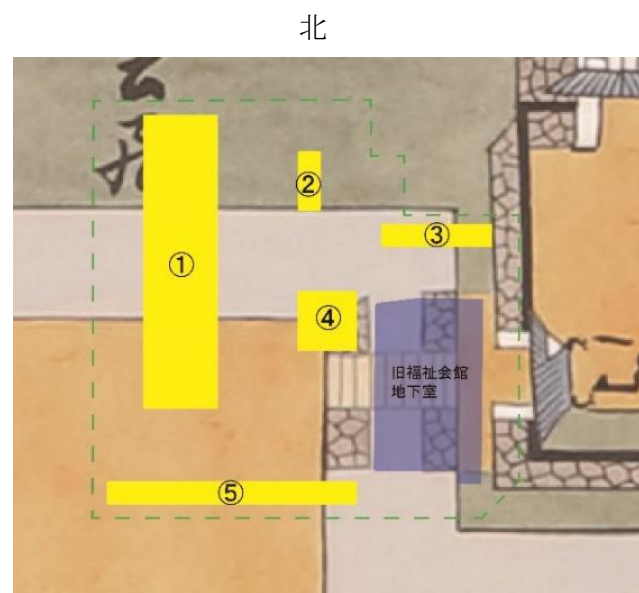


③大手門古写真 明治初年(1868)個人蔵

2 調査内容

今回の調査では、絵図やこれまでの調査の結果と照らし合わせ、堀の大きさと形、位置を確認するために5箇所の調査区を設定しました。

今回の現地説明会で公開する調査区①は、堀の位置や幅に加え、構造や深さについても調査しています。



④調査区設定図(①の絵図を一部拡大・加工)
※絵図の堀幅に合わせて重ねているため、調査区や敷地などの位置は実際の調査結果とは異なる場合があります。

3 調査成果

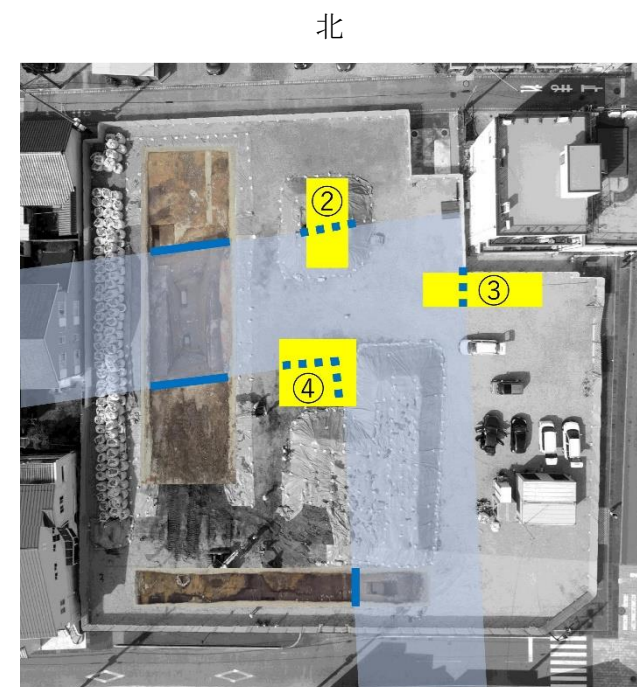
今回の調査で、これまでに次のことがわかりました。

【調査区1】

- ・犬山城の城内と城外を区画する外堀の一部が、地下に良好な状態で残されていることがわかりました。
- ・堀の幅は約17.5m、深さは6.5m以上であることがわかりました。
- ・堀の幅や深さ、空堀であることなどは、17世紀の絵図の記載内容とほぼ一致します。
- ・今回調査を行った箇所では、堀の斜面に石垣を築いた様子は見られませんでした。
- ・堀は4時期にわたって埋め戻されており、一部は戦後まで残されていたと推測されます。

【調査区5】

- ・大手門枡形を構成する堀の西端を確認しました。



⑤堀の想定と調査区設定予定図

4 今後の予定

【発掘調査について】

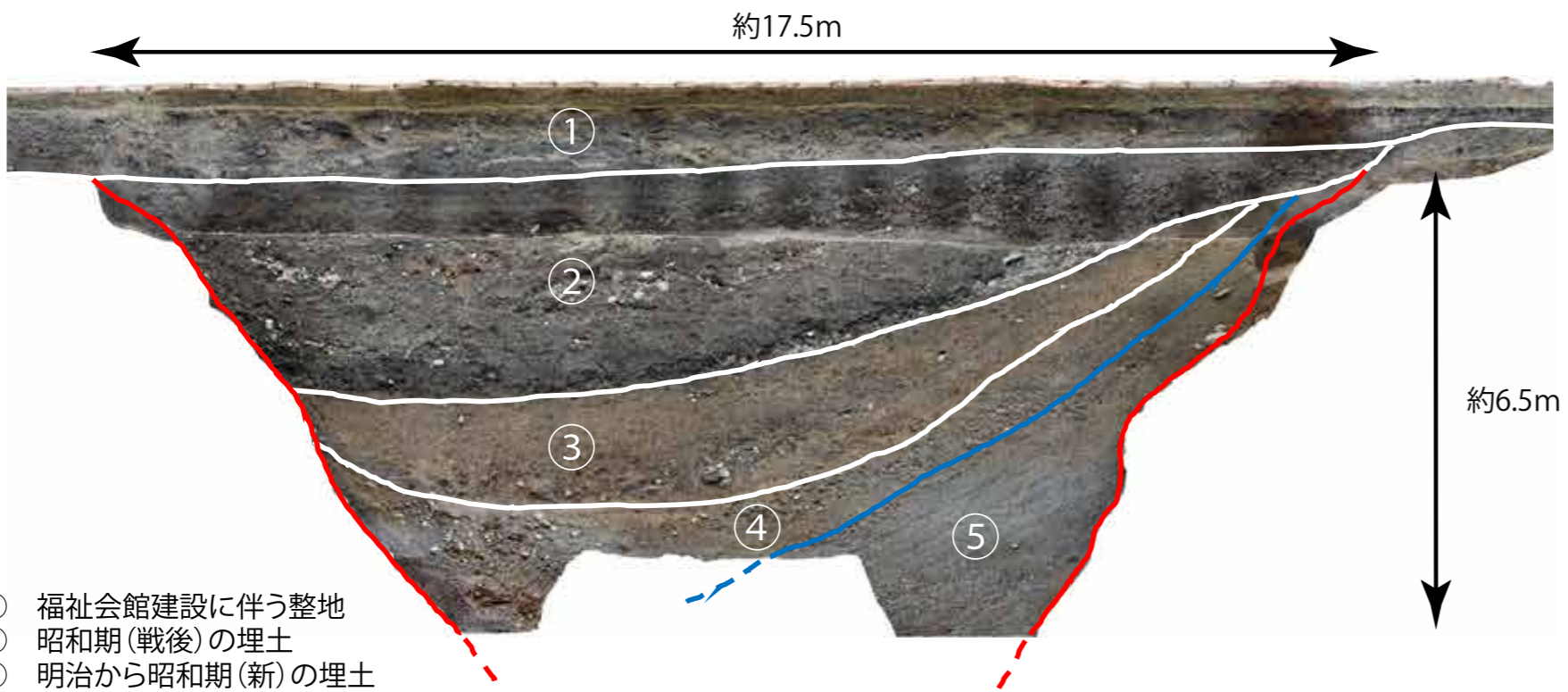
- ・調査区①、⑤の調査結果を踏まえて、調査区②～④の位置を調整したうえで発掘調査を継続し、堀の位置や形などを確認します。
- ・調査終了後、図面の作成や遺物の実測などの整理作業を行い、今年度中に調査成果を発掘調査報告書として取りまとめる予定です。

【史跡追加指定、整備について】

- ・今回の調査成果を踏まえて文化庁と協議しながら、令和4年度に史跡追加指定の手続きを進めるとともに将来的な史跡整備に向けた検討を進めます。



調査区① 堀平面写真(右が北)



- ① 福社会館建設に伴う整地
- ② 昭和期(戦後)の埋土
- ③ 明治から昭和期(新)の埋土
- ④ 明治から昭和期(古)の埋土
- ⑤ 廃城後の埋土

A 調査区① 堀断面写真(西壁)



B 調査区① 堀断面写真(東壁)



C 調査区① 堀北側法面(南から)



D 調査区① 堀南側法面(北から)